

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	12-053	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Associations between adolescent heavy drinking and problem drinking in early adulthood: implications for prevention. 思春期の多量飲酒と早期青年期の問題飲酒との間の関係：予防のための関与		
執筆者		
Norström T, Pape H.		
掲載誌		
J Stud Alcohol Drugs. 2012 Jul;73(4):542-8.		
キーワード		
思春期、早期青年期、問題飲酒		
要 旨		
目的： 思春期の多量機会飲酒が早期青年期におけるアルコール関連の問題と危険飲酒行動の傾向にどの程度かかわっているかについて検討した。この検討においての重要な問題は、未成年の大量飲酒をターゲットとした予防処置が早期青年期の問題飲酒をどの程度減少させるかという点にある。の症状と同様に色々な飲酒様式といかに関わっているか評価した。		
方法： データは、Norway Longitudinal Study の 1992 年 (Time1 ; 年齢は 14~17 歳) から 2005 年 (Time2) のデータで 1,764 人の青年が対象である。オッズ比と相対リスクに加えて我々は、思春期の多量機会飲酒の減少が早期青年期において危険飲酒行動とアルコール関連の問題をどの程度、予防できるかについて人口寄与割合を計算した。これらの計算には年齢・性・衝動と非行心理傾向を調整した。		
結果： Time2 の問題飲酒のリスクは、Time1 の多量機会飲酒が増えるにつれて増加した。しかし、飲酒様式は多くは連続していなかった。人口寄与割合から、もし Time1 における全ての多量機会飲酒の発生が無い場合、Time2 における危険飲酒行動とアルコール関連の問題は、それぞれ 11%、15%に減少すると予測されることが示された。		
結論： 思春期から早期青年期への飲酒様式はあまり連続していないために、若者の間における多量機会飲酒をターゲットとした将来の危険飲酒行動やアルコール関連の問題への潜在的な予防の効果は制限されるかもしれない。		